

新約聖書 マルコによる福音書 10章 17節—31節 (新共同訳)

¹⁷ イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」¹⁸ イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。¹⁹ 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」²⁰ すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。²¹ イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」²² その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

²³ イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」²⁴ 弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。²⁵ 金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁶ 弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。²⁷ イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にはできないことではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」²⁸ ペトロがイエスに、「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いだした。²⁹ イエスは言われた。「はっきり言うておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、³⁰ 今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。³¹ しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「神にはできる」

「主よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください」。

これは「聖フランチェスコの平和の祈り」における冒頭の言葉です。

先日、この「聖フランチェスコの平和の祈り」の中の、次の箇所を思い出しました。

「絶望あるところに希望を／闇に光を／悲しみあるところに喜びをもたらすものとしてください」。

この言葉からは、海辺の暗闇の中を光で照らす「灯台」を連想させられます。

そして人も、そんな「灯台」のような存在になることができるのだということに、大きな希望を感じました。

「聖フランチェスコの平和の祈り」は、こう締めくくられます。

「わたしたちは 与えるから受け／ゆるすからゆるされ／自分を捨てて死に／永遠のいのちをいただくのですから」。

本日の福音書は、「ある人」がイエスに問うた「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよい」のかという事柄がテーマです。

「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」。これはイエスを尊敬する真面目な男性が、イエスのもとに走り寄り、ひざまずいて尋ねた言葉です。神から祝福された永遠の命を得るためには、この世で何をすべきかと彼は問うているのです。

イエスは、男性が「善い先生」と呼びかけたことに対して「神おひとりのほかに、善い者はだれもいない」と答え、「善い」ということの意味に焦点を合わせます。

旧約聖書でも神に対して「善い」という言葉が用いられています（詩編119:68）。それは恵み深い神に対する言葉です。イエスは、自分に対してこの言葉が使われた時、男性の目をただひたすら天に向けさせるために、そう語ったのかもしれませんが。

イエスは、彼が真面目なユダヤ教徒であり、律法の教えをよく学んでいることを踏まえて話を進めていきます。その律法の教えとは「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え」という掟です。

男性は、それらの戒めを知っているだけではなく、子供の時から守ってきたことをイエスに伝えました（マルコ10:20）。

そんな彼を、イエスは慈しんで見つめます。ここで「慈しむ」と訳されているのは「アガペー」（無限の愛）という言葉です。イエスはこの人を、深く愛しながらこう言いました。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」。

男性の態度は真面目で真剣ですが、モーセの律法をただ文字通り行おうとするものでした。そこでイエスはモーセの律法を、単に文字の上だけではなく、その根源にさかのぼって語ります。「殺すな、盗むな」という禁止命令だけでなく、積極的に「人を愛せよ」というのが、律法の本質です。人の物を「盗まない」等のルールを守るだけでなく、自ら人に与え、貧しい者に「施し」をする積極的・能動的な愛の精神が必要なのです。

彼は、イエスの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去りました。たくさんの財産を持っていたからです。

イエスの答えは、彼に悲しみをもたらしました。悲しみながら立ち去った彼の心の深いところで危機が生じていました。この危機は、彼が自分自身を明らかにさせられた危機でした。彼は、自分が多くの財産を抱え、そのことにより頼

みながら生きることを越えられない人間であることを明らかにされたのです。

「神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ」と、コリントの信徒への手紙 二 7 章 10 節にあります。

イエスとの出会いによって、彼は自分を知る悲しみを知りました。しかし、彼が知った悲しみは、イエスが彼を愛したことによって生じさせられたものであり、イエスの愛によって導かれていく出来事なのです。

男性は、イエスの愛の中で、悲しみながら立ち去りました。彼は悲しんでいたけれど、愛されていました。彼自身はイエスから愛されていることを知らず、自分はダメな人間だと悲嘆していたかもしれませぬ。しかし、立ち去っていく男性の後ろ姿には、イエスの無限の愛が注がれていたのです。

人間の感情には、不安や恐れや怒りなど様々なものがありますが、「悲しみ」は、深く本質的な感情です。

ありとあらゆる嫌な思い、傷つくことを山ほど経験しても、人は「本当の悲しみ」「深い悲しみ」を感じることは、なかなかできないのではないのでしょうか。

なぜなら、自分のエゴや、自分自身や相手を許せない気持ちが、悲しみよりも優勢になってしまうからです。

エゴやゆるせない気持ちが妨げとなって、「本当の悲しみ」「深い悲しみ」まで到達しない。自分の精神が、心の深い部分にある「本当の悲しみ」に辿りつくより前に、表面意識にある自分のエゴや、自分自身や相手を許せない気持ちによって、はじき返されてしまうのです。

彼が、イエスの言葉に悲しんだのは、彼がイエスの言うことを拒否せずに、心の奥まで受け入れたということでしょう。

男性は、イエスの愛とゆるしのもとに、心の奥まで到達した「本当の悲しみ」「深い悲しみ」を初めて知ることができたのではないのでしょうか。

人間は、「本当の悲しみ」を知ることによって、愛を知ることができます。

また、深い憎しみを掘り起こされることによって、深い愛を知ることができるのです。

イエスはこう言いました。

「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ」
(マルコ 10:27)。

さて、夏も終わり、急に涼しくなってきました。

私たちの人生においても、さまざまな出来事があり、心騒がされたり、激しい

怒りを感じたり、絶望的な気持ちになることもあるでしょう。

ですが、どんな時も、その物事の表面的な事象ではなく、その奥にあるもの、そのことによる神の御心とは何か、ということに意識を合わせ続けていくことが大切です。

私たちは、共に神からゆるされ、愛されている存在であることを覚え、喜びと感謝のうちに日々を歩んでいきましょう。

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 アモス書 5章 6節—7節と 10節—15節（新共同訳）

⁶ 主を求めよ、そして生きよ。さもないと主は火のように／ヨセフの家に襲いかかり／火が燃え盛っても／ベテルのためにその火を消す者はない。

⁷ 裁きを苦よもぎに変え／正しいことを地に投げ捨てる者よ。

¹⁰ 彼らは町の門で訴えを公平に扱う者を憎み／真実を語る者を嫌う。¹¹ お前たちは弱い者を踏みつけ／彼らから穀物の貢納を取り立てるゆえ／切り石の家を建てても／そこに住むことはできない。見事なぶどう畑を作っても／その酒を飲むことはできない。¹² お前たちの咎がどれほど多いか／その罪がどれほど重いか、わたしは知っている。お前たちは正しい者に敵対し、賄賂を取り／町の門で貧しい者の訴えを退けている。

¹³ それゆえ、知恵ある者はこの時代に沈黙する。まことに、これは悪い時代だ。

¹⁴ 善を求めよ、悪を求めな／お前たちが生きることがするために。そうすれば、お前たちが言うように／万軍の神なる主は／お前たちと共にいてくださるだろう。¹⁵ 悪を憎み、善を愛せよ／また、町の門で正義を貫け。あるいは、万軍の神なる主が／ヨセフの残りの者を／憐れんでくださることもあろう。

新約聖書 ヘブライ人への手紙 4章 12節—16節（新共同訳）

¹² というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。¹³ 更に、神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです。この神に対して、わたしたちは自分のことを申し述べねばなりません。

¹⁴ さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。¹⁵ この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。¹⁶ だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

教会讃美歌 238番「いのちのかて」1,2節、328番「主イエスにしたがう」1,2,3節、333番「山べに向かいてわれ」1,2,4節、370番「しずけき祈りの」1,2,3節